

胆道がん（胆嚢がんも含む）

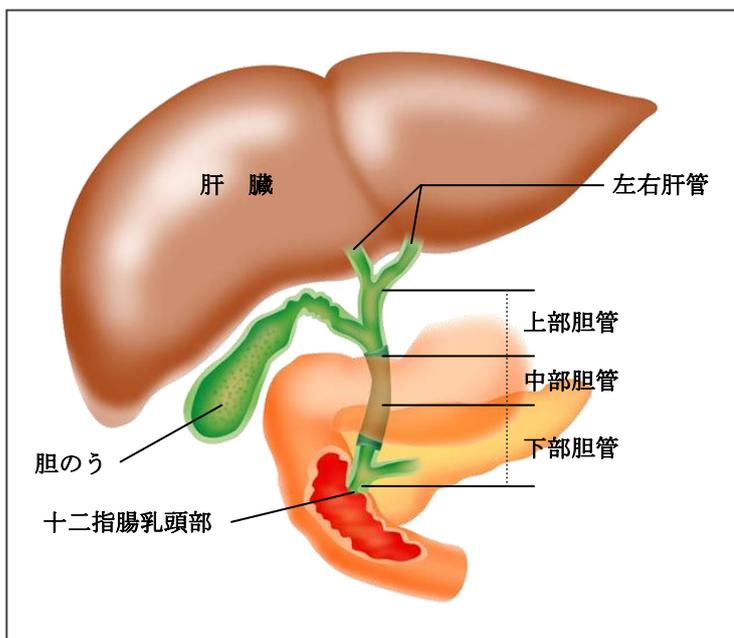
■胆道とは？

肝臓で作られる脂肪の消化を補助する胆汁の十二指腸への通り道です。

途中に、胆嚢がありますが、胆汁の一時貯え、脂肪分が胃の中に入ってきたら、収縮して十二指腸に排泄します。

胆汁は、脂肪を細かくし、膵臓からの脂肪消化酵素であるリパーゼの働きを手助けします。

胆道は、肝内胆管・肝外胆管・胆嚢・十二指腸乳頭部（胆道出口）に区分され、肝外胆管は5－10mmの直径で、全長10－15cmです。結石・腫瘍で通過障害を来たせば、拡張します。



胆道がんは、日本で年間の罹患者は約2万人で、約1.8万人が死亡しています（平成23年）。

がん死の約5%を占め、第6位です。ただし、肝内胆管のがんは、肝臓がんに含まれます。

がん死の中で、ほとんどのがんが男性優位（全体では、3：2で男性が多い）ですが、胆道がんは男性よりも女性のほうが多いです。

最近、印刷部門の従業員の胆道がん死が報告され、注目されています。有機塩

素系洗浄剤が誘因となった可能性もあり、厚生労働省が調査・検討中です。

ある種のインクの洗浄剤が疑われています。

■原因

胆石症・胆管炎・先天性膵管胆管合流異常症・先天性胆道拡張症がリスクとなります。また、そのリスクの候補として、女性・肥満・高カロリー摂取・多産などが挙げられています。

胆嚢がんの、約80%に胆石の合併が見られ、女性に多い傾向です。

胆嚢結石は、40-50歳代の女性で太った人が定番です。胆石が胆嚢粘膜への慢性刺激となり、好発年齢は、70歳代と高齢者に多い傾向です。

胆管がんは、やや男性に多く見られます。

■症状

がんの出来た場所（胆管と胆嚢）により、症状の出方は違ってきますが、

1. 黄疸（白目がまず最初に気付かれます）45%
2. 腹痛32%
3. 全身倦怠感16%
4. 食欲不振14%
5. 暗色尿11%
6. 発熱9%
7. かゆみ7%
8. 腰背部痛・体重減少4%
9. 白色便（通常の便の色は胆汁の色で、胆管の閉塞状態でおこる。）



■診断

1. 血液生化学検査
2. 腫瘍マーカーの上昇（CEA、CA19-9）
3. 超音波検査
4. 腹部CT
6. ERCP（内視鏡的逆行性胆管膵管造影検査）
7. PTCD（経皮経肝胆道ドレナージ）
8. PET-CT



■治療

1. 切除手術（根治が望める唯一の治療法）

2. 化学療法（抗がん剤）
3. 放射線療法
4. 胆道ドレナージ・ステント挿入による狭窄部拡張術
（黄疸を放置すると、肝腎障害をおこしたり、重篤な胆管炎を併発し、致命的な状況も来たすことがあります。）
5. 緩和治療

■ 予後

膵臓がんが続いて、5年生存率は約20%と極めて予後不良のがんである（乳がん・甲状腺がんは約90%）。

切除可能な症例では、30-40%との報告もある。

まとめ

胆道がんでは早期発見されることが少なく、色々な症状が出た時点では、進行がんになっている場合が多く、予後不良の大きな原因です。

健診・人間ドック等にて、肝機能障害（ビリルビン・胆道系酵素の上昇）・超音波検査による異常（肝内胆管・肝外胆管・胆嚢の拡張・腫瘤状病変）が指摘されれば、さらなる精密検査を受けることが肝要です。